

Osaka International Convention Center

Osaka

大阪国際会議場

 グランキューブ便り

第10回日本臨床腫瘍学会学術集会

Beyond the Global Standard of Medical Oncology—Perspectives from Asia—(アジアから世界へ)を終えて
中川和彦さん

| 特集 |

日本も、国際戦略としてデザイン重視を。
それがグローバル化の中で生き残る道。

喜多 俊之さんインタビュー

広報誌

2012

秋号/VOL.3

	Asian n=77	Sorafenib n=79	Non-Asian n=282	Sorafenib n=276
Days on treatment, median (range)	222 (5-541)	148 (1-810)	195 (1-470)	153 (0-572)
Days on drug, median (range)	192 (5-541)	136 (1-609)	106 (1-470)	144 (4-554)
Average daily dose, mg, mean (SD)	10.2 (3.4)	671.9 (149.5)	10.7 (3.3)	673.7 (148.8)
Relative dose intensity, %, median (range)	98 (25-192)	88 (38-100)	99 (32-194)	92 (27-190)

* Time period starting from date of the first dose to date of the last dose or date of last administration.
† Total number of days in which axitinib or sorafenib was actually administered.

第10回日本臨床腫瘍学会学術集会

Beyond the Global Standard of Medical Oncology—Perspectives from Asia—(アジアから世界へ)を終えて
2012.7.26～28



第10回日本臨床腫瘍学会学術集会 会長
近畿大学医学部腫瘍内科教授

中川和彦

■日本臨床腫瘍学会とは

日本臨床腫瘍学会(JSMO)は、がん薬物療法専門医の育成・認定を最も重要な使命として、2002年に設立しました。従来のがん診療は、外科医を中心となって、患部を手術で切除した上で薬剤・抗がん剤治療をしてきました。しかし新しい薬剤が次々できてくると、薬物療法の専門家が必要になってきます。

日本の医療は臓器別なので、がんに関しても、呼吸器病の中の肺がん、消化器病の中の消化器がんなどに細分化されています。しかし、喘息や慢性呼吸器疾患肺がん、胃潰瘍と胃がんはまるで違う病気です。臓器で分けると、がん診療のリーダーが誰もいない状況になってしまいます。ですから、発症部位は違っても、同じような抗がん剤で治療をするので、まとめてがん診療の専門家をつくる方が合理的です。

2007年に「がん対策基本法」ができ、「臓器横断的ながんの診療体制」が重点項目の1つになりました。厚生労働省は、がんの外来診療や相談の窓口を設けた「がん診療連携拠点病院」の認定を進め、日本中に390ヶ所ほどの機関が指定されました。

こうしてようやく、臓器横断的ながん診療に携わる放射線治療や、専門の看護師、薬剤師などの職種横断的な医療チームが先導して、臓器の専門医と一緒に診療する体制ができてきました。患者さんに対しても、例えば肺がんは肝臓に転移しても、肝臓がんではなく肺がんであることなど、がんに関する総合的理解を広めるとともに、罹患したときには部位に限らず腫瘍内科に行けばいいという仕組みもできてきました。

■第10回学術集会の概要

〈アジアから世界へ〉

3日間の学術集会には、JSMO会員、製薬会社などの企業関係者、マスメディア、患者団体や市民の方々を含め、13カ国から4,821名が参加しました。昨年より1,000名の大幅増です。海外からは招待者が28名、自費参加者が100名にのぼりました。

今回のテーマは「アジアから世界へ」で、最大の特徴は海外から演題を公募したことです。これまで演題は国内で募集し、海外からは最先端医療の研究者を数多く招待して、国際的視野からディスカッションを行ってきました。しかし、オリジナルの研究データの発表を聞くことが最も有用です。そのため、今回は海外の一般参加者からも最先端の演題を募って日本と海外の演題を発表し、議論していくことにしました。プレナリーセッションには、国内外から寄せられた924の演題から7つを厳選して発表してもらい、全参加者が一堂に会して、3時間にわたるディスカッションを行いました。日本からの演題には海外の一流の研究者が、海外からの演題には日本の第一線の研究者がそれぞれ批評し、活発な質疑応答と共に今後の診療のあり方について議論を深く掘り下げていきました。

海外参加者は、韓国、中国、台湾などアジアを中心でした。ここで、アジアとしてのコンセンサスの形成が1つの重要な課題でした。欧米とアジアではがんの発生原因が違う場合もあり、臨床も違います。例えば、肺がんに占める腺がんの割合は、欧米もアジアも60～70%ですが、アジアでは腺がん患者の40%ぐらいが、EGFR遺伝子変異が陽性、欧米は10%以下です。日本では肺がんと診断されたらEGFR遺伝子変異を調べるのが当然で、保険が適用されます。しかし、欧米では特殊な病院でしか扱いません。アジアでも、経済的問題や医療制度が整っていないことなどから、EGFRの遺



伝子変異を調べることはあまり進んでいません。ですから、アメリカやヨーロッパとは違ったアジア独自の仕組みや診療について、共通認識を持つ必要があります。世界最大規模のアメリカ臨床腫瘍学会の学術集会にも、日本、中国、韓国から大勢が参加していますが、そこではアジアの実態に合ったコンセンサスは得られません。だからこそ、我々は日本でこのような学術集会を国際的環境下で開いているのです。

〈今回の成果と今後の課題〉

もう1つの大事な視点は、日本はがん診療の専門家の層が最も厚く、アジアの中心的地位を占めていく力があることを、アジアの諸外国が認めていることです。今こそ日本が国際化し、しかるべき国際貢献を実現するラストチャンスです。今動かなければ、日本がアジアでの主導権を握ることは難しくなります。

一番大きな壁は言葉です。今回は演題を国際公募するとともに、英語のセッションを多く設けました。プレナリーセッションも英語で発表、質疑応答、討議を行い、アメリカから招待した研究者たちも、質の高さに驚いていました。

公開シンポジウムのテーマの1つは、市民が信頼できるがん診療を展開していくには、人の育成が重要だということでした。実は、日本のがん診療ではまだ旧来の臓器別の診療体制が根強く残っています。専門家が職種横断的にチーム医療を行うシステムが本当に機能するには、患者のために何をどうすべきなのかということを、市民、マスメディア、患者団体の方々にも理解していただきなければなりません。そして世論として盛り上げていくことが、世の中を変えていくと思うのです。

今回の会議は、多くの皆さんから、活気にあふれ非常に面白かった、勉強になったと非常に高い評価をいただきました。参加者が昨年より1,000名も増えたことも、皆さんの関心の高さを物語っているのではないかと思います。

■これからの医療と社会のあり方

全てのがんは同じではありません。個別化治療というのが、現在のがん診療の1つのキーワードです。近い将来、臓器のある部分はがんになっても、長く生きられるようになるのは確実です。何十年か後には、人はがんでは死なくなるでしょう。しかし、まだしばらくは、がんが死因のトップで、亡くなる人も数多くいるという時代が続くと思います。

大事なことは、どんなに医学が進歩しても、人は必ず死ぬ

ということです。そして、どんなプロセスで、どんな環境で最期を迎えるのが患者さんにとって一番いいのか、ということが最重要課題なのです。

末期のがん患者を主治医1人で支えるのは無理です。そのためにも、職種横断的な医療チームが、臓器横断的に全体を診る仕組みが必要不可欠なのです。開業医、ホスピス、中核病院、大学病院などのネットワークと、患者団体、ボランティア、宗教家も含めた市民が密接に関わりながら、地域として患者を支え、患者が安心して死んでいくような、成熟した社会をどのように構成していくかが、一方では非常に大事なテーマです。

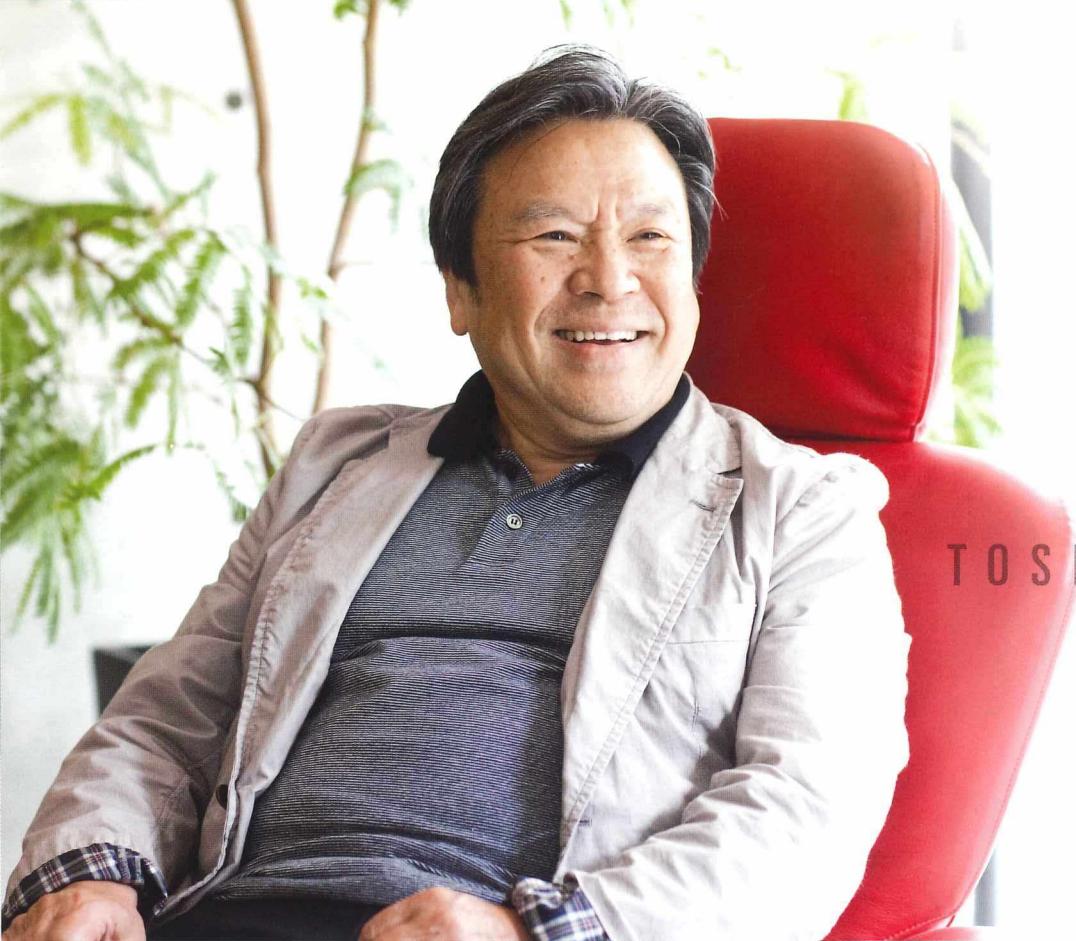
さらに、末期を迎える人が、それでもなお希望と拠り所にするのが最新の医療です。最新医学と終末期医療は、表裏一体です。核家族化が進み、患者を支える家族がいなくなった今、治療もその人の置かれた境遇や環境を抜きにはできません。今の社会構造は非常に脆弱です。そういう意味でも、地域のつながりを活性化させていくことが、これから非常に大きな課題だと思います。

■国際会議誘致の重要性

大阪国際会議場は会場の運営やスタッフの対応が非常によく、1ヵ所でいろんな催しができたことも、ありがたかったです。しかし、参加者がさらに増えて6,000人、7,000人という規模になつたら、ここでは収容できなくなります。また、10階のロビーが狭いため、ランチョンセミナーの会場へ一斉に移動するときは混雑しました。エレベーターでの移動は、スタッフが3基に効率よく誘導してくれたのでスムーズでしたが、エスカレーターはスピードが遅く、上までストレートに行けないものがあるので少し残念でした。

世界から人が集まる国際会議や学会を開くには、今の規模では無理があります。国内の学会も多くがかなり大規模化しているので、この会議場を使う場合は、他の会場も併用するしかありません。大規模な会議場の建設に資本を投じても、宿泊や交通、飲食などさまざまな分野で都市が活性化し、非常に大きな経済効果を生むので、すぐに回収できます。ぜひ、本格的なコンベンションセンターを、アクセスの便利な場所につくることを考えられてはいかがでしょう。(談)

(注)Epidermal Growth Factor Receptor; EGFR:上皮成長因子受容体(じょうひせいちょういんじゅようたい)は、細胞の増殖や成長を制御する上皮成長因子(EGF)を認識し、シグナル伝達を行う受容体。



TOSHIYUKI KITA

特集

日本も、国際戦略としてデザイン重視を。 それがグローバル化の中で生き残る道。

喜多 俊之さんインタビュー

「国を挙げて住環境産業の振興に取り組めば、日本経済は必ず発展する」。こう力強く語るのは、日本を代表するプロダクトデザイナー、喜多俊之さん。世界を舞台に第一線で活躍を続ける立場から、これから日本の暮らしや都市のデザインのあり方についてお聞きしました。

(大阪市北区の事務所にて。インタビューは当会議場相談役の萩尾千里)

プロダクトデザイナー 喜多 俊之

Profile

1969年より、日本にとどまらず、環境および工業デザイナーとして、イタリアを始め、国際的に制作活動を拡げていく。ヨーロッパや日本のメーカーから、家具、液晶テレビなどの家電、ロボット、家庭日用品に至るまで、分野を超えて多くのヒット商品を生む。作品は、ニューヨーク近代美術館、パリ国立近代美術館、ミュンヘン近代美術館等、世界のミュージアムに多くコレクションされている。近年は、日本だけでなく、ヨーロッパ、アジアなどで、セミナーやワークショップを開く等、教育活動にも力を入れている。ライフワークとして、日本の伝統工芸を取り組む他、地場産業を活性化する仕事に関わり続けている。

デザインは国家の価値ある資源

萩尾 グローバル化が加速する中、世界では新たな価値の表現の一つとして、デザインが大変重視されるようになってきました。喜多さんは、世界における日本のデザインの現状を、どう見ておられますか。

喜多 私は1969年からミラノに拠点を構え、3年前に中国の上海と広州にも事務所を開設しました。その中で感じるのは、日本と世界ではデザインの定義にずれがあるということです。アジアの国々は、経済や文化、機能性や安全性など、あらゆる要素を総合してデザインと定義し、国の資源と捉えています。企業経営者も、経営戦略の中にデザインがなければ、企業は立ち行かなくなると認識しています。

韓国はデザインを生かしたヒット商品を次々と出し、とても活気づいています。中国でも温家宝首相のもと、6年ほど前からデザインを国家戦略として進めています。アジア各国が同様の取り組みを始めているのに、日本だけが取り残されているのが現状です。

萩尾 トリノが冬季オリンピックの開催地に決まったとき、私

もイタリアへ視察に行き、有名なプロダクトデザイナーのジョルジエット・ジウジアーロ氏にも会いました。デザインを核としたイタリアの産業政策を目の当たりにして、日本も国家戦略としてデザインを磨くことが急務であると痛感し、喜多さんに関西経済同友会に入っていたわけです。しかし、大阪の都市デザインは未だに変わっていません。

喜多 日本ではデザインはまだ市民権を得ていません。デザインを国の政策にまで高めるには、暮らしの中で先行事例をつくるなければいけないと思います。

国際戦略の強化が日本の課題

萩尾 2001年に発売されたシャープの液晶テレビは、喜多さんがデザインして大ヒットしましたね。

喜多 これには長い物語があります。液晶テレビが開発されて4年ほど経っていましたが、価格の問題と、当時の技術では画面を斜めから見ると暗いという問題があり、販売は伸び悩んでいました。しかし、コンパクトであるなど利点も多くありました。そのとき、社内からデザインを変えてみようという意見が出て、私がデザインを依頼されました。

まず、液晶画面の見えにくさを解決するため、画面が回転するようにしました。また、それまでのモデルはスピーカーが後ろにあって音がよくなかったので、大きなスピーカーを前面につけました。小さなテレビはお年寄りが使うことが多いので、スイッチを前につけて操作しやすくし、価格を抑えるためにローコストの素材を選ぶなど、ユーザーの立場でデザインをやり直したのです。

商品名は、新しい液晶テレビらしいものにしたいと思い、「AQUOS」にしました。「アクア」はイタリア語で水という意味です。デザインが変わると、技術は前のままでも一気に売れるようになり、世界最初の液晶テレビの大量生産が大阪から誕生しました。

萩尾 大阪発のヒット商品ですね。吉永小百合さんのCMも話題になりました。

喜多 すぐに、ドイツのハンブルグやミュンヘンの美術館から、このテレビを永久コレクションにしたいと申し入れがありました。デザインと技術を含め全体のバランスが高く評価されたようです。



日本生まれの製品を世界市場で成功させることができ、自分の役割だと信じていましたが、間もなく価格競争が始まり、海外拠点で安価なものを製造するようになりました。しかも残念なことに、海外のメーカーがコピー商品をどんどんつくり始めたのです。

都市の総合デザイン

喜多 中国政府はデザイン大学を1000校ぐらいつくり、技術開発と同じぐらいデザインに力を入れています。今は韓国ですが、中国がデザイン大国になる日は遠くありません。

萩尾 都市は一つの明確なコンセプトを持ち、それに合わせて新しいものをつくる、普遍化と個性化を進めていくべきだと思います。例えば、京都と奈良は、世界から見ると一種のテーマパークなので、ビル一つ建てるにも、まちの雰囲気に合わせたものでなければいけません。30階、40階の高層ビルを建てたら、せっかくの景観が台無しです。

喜多 40年ぐらい前まで、京都は昔ながらの黒い甍(いらか)の町並を残し、ローマより美しいまちだと言われていました。ところが、相続税が払えずに町家が次々売りに出され、駐車場や中途半端なビルが乱立したため、今は海外から来た人、特に建築家などに言わせると「キタナイ京都」になってしまいました。調和が崩れてしまったのです。

一方、大阪は戦後の焼け野原から復興して今ほどの大都市になり、かつての「大阪城」の名残もあちこちに見られます。江戸時代の町人が私財で架けた多くの橋や、堂島の米市の活気を今に伝える絵などもたくさん残っています。今からでも遅くないので、そういう歴史的な蓄積のあるまちであることを再認識して、大阪は誇りを取り戻さないと。

萩尾 御堂筋と大阪城は、世界に出来ても恥ずかしくない都市資産です。特に御堂筋の銀杏は初夏の新緑も、秋の紅葉も素晴らしい。その時期に合わせて文化的なお祭りをすれば、みんなが御堂筋を見直すでしょう。

喜多 御堂筋の銀杏は太古の種で、自然のものを入れても、あれほど群生しているのは世界的に珍しいそうです。私は、パリのシャンゼリゼ、ニューヨークの五番街、そして、アジアの御堂筋と、並び称せられるようになることを願っています。そこにデザイン産業や知的産業を集めたら、本当に素晴らしいまちになります。

10月24日(水)～26日(金)に当会議場イベントホールで喜多俊之さんがプロデュースする“LIVING & DESIGN 2012 住まいと暮らしのリノベーション TOTAL INTERIOR”が開催されます。



水のことを 学ぶなら大阪

アディカリ バドリ ナート



世界の開発途上国では、汚染された飲水による感染病や水不足による病気等が大きな社会・経済問題になっている。多くの途上国がこのような不衛生な水による病気の治療のために多くの国家予算を使っている。汚染された飲水の犠牲者は子供と老人に多い。また、水汲みに女性と子供がかかなりの時間をかけている状況である。途上国においては大きな課題は如何にして貴重な水資源を安全で有効に利用出来るかである。

大阪市では一日市民一人当たり水道水の使用量は450リットル以上で、日本の平均よりも高く、蛇口をひねれば24時間水が出てそのまま飲める。水道水の用途別の使用量はトイレが一番多く、続いて風呂と炊事である。開発途上国においては、国民一人当たり水の使用量は一日一人当たり国によってちがいがあるが15リットルで、多くても100リットル以下である。安全な水の普及につれて国民の平均寿命も伸びている。水道水の漏水率も大阪市では約6%であるようで、他の先進国の多くの大都会の25%や開発途上国の30%以上と比べ物にならないほど効率が良い。日本は昔、水源は池で排水などを捨てるのは川だったそうである。経済が発展することとともに、排水処理技術の進歩によって汚れた川がきれいにされている。開発途上国のが昔の日本と同じように排水を川に垂れ流している状態であり、改善の為、大阪が今まで培ってきた上下水道技術が必要とされている。

話は少し変わるが、小生の出身国であるネパールはヒマラヤ山脈で有名で、日本全国から多くの登山家が訪れる。エベレストの登山口のホテルでは高山地のためにベッドの横に酸素が置かれている様で、苦しい時に吸うそうである。日本の他の地域の方は苦しければ直ぐ吸うのに対して、大阪出身の方はわざわざフロントまで行って一時間当たりいくらかと値段を聞いてから吸うそうである。大阪では

水道料金の値上げはなみたいてのことではないと思われる。しかし、大阪人はハッキリしており親しみやすい。他の地域や都市を嫌になって大阪へ来た外国人は沢山会ったことがあるが、大阪を嫌になって他所へ移った外国人には会つたことはない。大阪に一度住んだことのある外国人は大阪と心の繋がりを持つ。

ため池や、市内河川のアメニティとしての利用など水に関する学ぶことが沢山ある。水関係の事業は公益事業であるため相手国政府や地方自治体へアプローチしやすい。水をはじめ大阪の今まで培ってきた技術を世界に普及し、それをビジネスに繋ぐためには市長直轄で国際協力及び貿易振興部を設置し地球規模のアクションプランを作成するとともにプロジェクトファインディングチームをつくる必要がある。また、海外の自治体を選びその地域に必要で大阪が培ってきた技術をプレゼンテーションする機会を設ける。現在日本で留学している人が架け橋になり、先ず大阪の技術を留学生相手に紹介するとともに留学生が卒業後も自国と大阪で自由に活動できる環境作りも必要である。

大阪が多くの技術分野において進んでいるが、特に水のことについて学ぶなら大阪が最適である。

アディカリ バドリ ナート●PROFILE



ネパール出身

1990年大阪府立大学園芸農学研究科博士課程修了(農学博士)、株式会社ビケンテクノへ入社。日本及び他のアジア、アフリカ、東ヨーロッパで農業・農村、水資源開発関連ODAプロジェクトにエキスパートコンサルタントとして活動。2003年ネパールへ帰国、コンサルタントとして活動。2005年~2012年アメリカテキサス州滞在、商売及びブータン難民のアメリカでの定住のため活動。2012年4月より株式会社ビケンテクノ再入社、国際事業部シニアマネージャー。


施設便り
大阪国際会議場の安全対策

大阪国際会議場では、年2回消防訓練を実施しています。

2012年6月29日に行われた訓練の様子をご紹介します。



B1F 防災センター
24時間体制で防火・防災の監視をしています。



5F 廚房
訓練出火想定により、初期消火を実施。



B1F 防災センター
訓練指揮本部設置。



1F プラザに避難
避難者の人員確認実施。



1F プラザにて
訓練用消火器による初期消火訓練実施。



防災システム
優良消防防災システム消防庁長官賞と
防火優良認定証を受けています。

防災設備


各フロアには屋内消火栓が設置され、高層階(11・12F)には消防隊専用の放水口・ホースがあります。



粉末消火器10型477本・粉末50型6本を各フロアに設置しています。



建物の北東側・北西側・南東側の3カ所に消防隊専用の送水口等が設置されています。



3F・5F・12Fの3カ所にAEDを設置しています。

株式会社大阪国際会議場の第63回定時株主総会で承認されました、
第63期事業報告の一部を抜粋して掲載しております。

第63期事業報告(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

営業成績の内訳

(単位:千円)

項目	期別 第62期 平成22年4月1日から 平成23年3月31日まで	期別 第63期 平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで
施設利用収入	1,503,306	1,485,170
(施設利用)	(1,126,800)	(1,107,448)
(備品利用)	(240,903)	(242,172)
(駐車場)	(35,333)	(35,306)
(テナント)	(46,000)	(44,614)
(キャンセル)	(14,117)	(15,583)
(その他)	(40,149)	(40,045)
売上管理手数料収入	121,648	118,592
損害保険手数料収入	250	241
旅行手数料収入	208	304
その他の営業収入	483	3,071
合計	1,625,896	1,607,380

催事利用状況

(単位:件)

利用状況	会議利用 (うち、国際会議)	展示会利用	興行利用	合計
第62期	1,574(46)	49	110	1,733
第63期	1,518(41)	50	102	1,670

施設の稼働率状況

(単位:%)

稼働率	メインホール ①	イベントホール ②	10階会議室 ③	左記平均 (①～③)	その他会議室 ④	全館平均 (①～④)
第62期	85.1	83.9	85.6	84.9	62.1	72.1
第63期	80.1	82.4	81.6	81.4	58.7	68.5

(注) 10階には主要会議室が集積しており、独立掲記しております。また、年間24日のメンテナンス日を控除して稼働率を算出しております。

来館者数

(うち海外からの来館者数)

第62期	105万6千人 (1万8千人)
第63期	115万2千人 (8千人)

貸借対照表(平成24年3月31日現在)

(単位:千円)

資産の部		負債の部	
流動資産	1,786,129	流動負債	838,715
現金及び預金	1,593,933	買掛金	59,651
売掛金	57,000	未払費用	7,885
有価証券	100,107	未払金	315,888
貯蔵品	4,169	未払法人税等	72,866
前払費用	4,741	未払事業所税	23,894
繰延税金資産	22,902	未払消費税等	3,334
未収収益	9,493	前受金	338,486
その他	787	預り金	2,113
貸倒引当金	△ 7,006	賞与引当金	13,020
固定資産	3,686,763	その他	1,573
有形固定資産	327,045	固定負債	134,254
建物	107,257	退職給付引当金	72,904
構築物	596	長期未払金	1,350
工具、器具及び備品	97,406	長期預り保証金	60,000
土地	121,783	負債合計	972,969
無形固定資産	60,862	純資産の部	
ソフトウェア	60,412	株主資本	4,496,226
電話加入権	366	資本金	600,000
その他	83	利益剰余金	3,900,336
投資その他の資産	3,298,855	利益準備金	123,410
投資有価証券	2,512,942	その他利益剰余金	3,776,926
長期預金	750,000	別途積立金	3,200,000
差入保証金	3,000	繰越利益剰余金	576,926
保険積立金	7,407	自己株式	△ 4,110
繰延税金資産	25,506	評価・換算差額等	3,696
		その他有価証券評価差額金	3,696
		純資産合計	4,499,922
資産合計	5,472,892	負債及び純資産合計	5,472,892

損益計算書(平成23年4月1日から平成24年3月31日まで)

(単位:千円)

科目	金額
売上高	1,607,380
売上原価	1,105,697
売上総利益	501,683
販売費及び一般管理費	283,057
営業利益	218,626
営業外収益	49,209
受取利息	46,076
有価証券売却益	395
その他	2,737
営業外費用	7,035
有価証券売却損	6,600
その他	435
経常利益	260,799
税引前当期純利益	260,799
法人税、住民税及び事業税	117,324
法人税等調整額	△ 609
当期純利益	116,714
	144,085

(注)記載金額は千円未満を切り捨てて表示しております。

多彩な催しが開催されました。

「伝統と創意」'12日本書芸院展

2012年4月17日(火)～22日(日)／イベントホールほか

全国に約1万5千人の書家を擁する、日本最大規模の書道団体である公益社団法人日本書芸院の役員による展覧会に、今回は書道界を代表する421名の新作443点を展示しました。初日には桂米團治師匠による記念講演会も開催し、連日盛況で6,715人の方にご来場いただきました。

(主催:公益社団法人日本書芸院、読売新聞社)



第24回 日本アレルギー学会春季臨床大会

2012年5月12日(土)・13日(日)／メインホールほか

2012年度の第24回日本アレルギー学会春季臨床大会を5月12日～13日の2日間、大阪国際会議場にて開催させて頂きました。会期中3,800人を超す方の参加があり、大変な盛会裡のうちに無事大会を終了できました。2015年度からはアレルギー学会は年一回の開催となる予定で、その意味でも我々にとって、感慨深い学会となりました。



第44回 日韓経済人会議

2012年5月16日(水)・17日(木)／10F会議室1001～3ほか

日韓の経済人が一堂に会して相互の理解と協力への認識を確かめあう「日韓経済人会議」を1969年から毎年1回、両国交互に開催しております。

今年は、本会議を5月16日～17日に大阪で初めて開催し、参加者は日本側・韓国側合わせて311名の会議となりました。今回の会議では、日韓両国が「一つの経済圏」を創成するために、如何に対応すべきかという主題に関して、建設的且つ真摯な議論が行われました。

(主催:社団法人日韓経済協会・社団法人韓日経済協会)



免疫学国際シンポジウム "Dynamism of Immune Reactions & Regulation"

2012年5月22日(火)～23日(水)／12F特別会議場

大阪大学免疫学フロンティア研究センターの主催で行われたこのシンポジウムでは、自然免疫学・ガン免疫・自己免疫疾患など多岐に渡る免疫学分野の世界的な研究者が最新の成果を発表しました。感染症・免疫学の研究・教育者として知られた山村雄一大阪大学元総長を偲ぶ特別セッションも開催し、延べ600人の聴衆を集めました。



| Event Calendar |

	会期	催事名
9月	8/30(木)～9/2(日)	第4回 アジア太平洋生殖医学会 第30回 日本受精着床学会総会・学術講演会
	7(金)	第16回 買いまっせ!売れ筋商品発掘市 大阪商工会議所
	8(土)	UNISONIC SPECIAL GUEST: GOTTHARD
	9(日)	第79回 大阪透析研究会
	9(日)	郷ひろみ HIROMI GO CONCERT TOUR 2012 "LINK"
	9(日)	日本認知症ケア学会 2012年度関西地域大会 一般社団法人日本認知症ケア学会 事務センター
	15(土)・16(日)	第49回 日本小児アレルギー学会
	17(月・祝)	第7回 関西フラフェスティバル
	21(金)～23(日)	第42回 公益社団法人日本口腔インプラント学会・学術大会
	27(木)～29(土)	第46回 日本小児内分泌学会学術集会 ～成長の不思議を見つめる小児内分泌学～
	28(金)	地震予知への挑戦 地震予知研究国際フォーラム
	29(土)・30(日)	第15回 日本IVF学会
	29(土)・30(日)	徳永英明 HIDEAKI TOKUNAGA CONCERT TOUR 2012
	2(火)・3(水)	aiko LIVE TOUR Love Like Pop vol.15
	3(水)～5(金)	2012年秋季大会 公益社団法人自動車技術会
	6(土)	岡村靖幸 LIVE TOUR 2012 「スポーツ」
	6(土)	日本超音波医学会 第39回 関西地方会学術集会
10月	6(土)・7(日)	中之島国際音楽祭 2012
	7(日)	"BEING LEGEND" Live Tour 2012
	9(火)・10(水)	第1回 日本精神科医学会学術大会
	13(土)・14(日)	第63回 日本皮膚科学会中部支部学術大会
	13(土)・14(日)	RDI・レナウンプレミアムブランドセール
	13(土)・14(日)	徳永英明 HIDEAKI TOKUNAGA CONCERT TOUR 2012
	15(月)	第67回 大阪市民生委員児童委員大会
	17(水)～19(金)	一般社団法人日本脳神経外科学会 第71回 学術総会 大阪大学大学院医学系研究科
	20(土)	第3回 国循 市民公開講座
	20(土)・21(日)	SCANDAL HALL TOUR 2012 「Queens are trumps 一切札はクイーン」
	23(火)	2AM JAPAN TOUR 2012 "For you"
	24(水)・25(木)	氷川きよしコンサートツアー 2012
	24(水)～26(金)	LIVING & DESIGN 2012 住まいと暮らしのリノベーション TOTAL INTERIOR
	26(金)・27(土)	シド TOUR 2012 『M&W』
11月	28(日)	第5回 宝酒造杯クラス別チャンピオン戦 大阪大会 公益財団法人日本棋院 関西総本部
	30(火)	ザ・デューカス・オブ・セプテンバー・リズム・レビュー
	31(水)	藤井フミヤ Fumiya Fujii Concert Tour 2012 Life is Beautiful
	10/31(水)～11/2(金)	計測展2012 OSAKA 一般社団法人日本電気計測器工業会
	1(木)・2(金)	aiko LIVE TOUR Love Like Pop vol.15
	3(土・祝)	一青窈 10th Anniversary Tour 2012 ～HOTEL アカシア～
	4(日)	京都府立医大・藍野病院共同市民公開講座「体にやさしい最先端のがん治療」
	5(月)	ノラ・ジョーンズ
	7(水)	平成24年度「中小企業経営診断シンポジウム」
	9(金)～11(日)	第22回 日本歯科医学会総会
	13(火)～15(木)	第60回 日本ウイルス学会学術集会
	16(金)～18(日)	第33回 動物臨床医学会年次大会 "The 33rd Annual Meeting of Japanese Society of Clinical Veterinary Medicine"
	20(火)～22(木)	パナソニック株式会社 SUPER BOX 2012
	21(水)・22(木)	松山千春コンサート・ツアー2012「ふわり ふわり」
	21(水)～24(土)	第13回 減菌供給業務世界会議
	23(金・祝)～25(日)	ディズニー・オン・クラシック まほうの夜の音乐会 2012 Dreams Come True
	11/29(木)～12/1(土)	第62回 日本アレルギー学会秋季学術大会 "The 62nd Annual Meeting of Japanese Society of Allergology"

Conference room & Hall



12F 特別会議場

世界のVIPをお迎えする場にふさわしいハイグレードな空間。



10F 会議室

全25室の会議室。10人から1,000人規模の会議・セレブション・展示会等に対応。



5F メインホール

最大2,754名収容。国際会議、各種式典、コンサートまで、さまざまな用途に対応。



3F イベントホール

広さ2,600m²、高さ9.4mの無柱空間。規模に応じて分割可能。

Restaurant & Cafe

12F レストラン グラントック

地上80mの高層から大阪を一望。メニューは魚介類を中心とした南欧風料理。昼は和定食もご用意いたします。個室も2室(18人・10人)ございます。



11:00～14:00

※貸切営業の場合もございますので予めお問い合わせください。
※時間外はご予約にて賜ります。

06-6441-1485

5F カフェテリア キューブサンク

セルフサービス方式の、リーズナブルなお値段で気軽にご利用いただけるカフェテリアです。

※高速ワイヤレスインターネット「フレッツスポット」&「HOT SPOT」と「Mzone」をご利用いただけます。



11:00～15:00

(ラストオーダー 15:00)
※催事の状況により営業時間を延長する場合があります。

06-4803-5563

2F ティールーム カフェキューブ

モダンなインテリアの中でくつろぎのひとときを。喫茶を中心に、カレー等の軽食もご用意しております。

※高速ワイヤレスインターネット「フレッツスポット」&「HOT SPOT」と「Mzone」をご利用いただけます。



9:00～19:00

(ラストオーダー 18:30)
06-4803-5561

1F オープンカフェ カフェプラザ

※季節営業

木立に囲まれたオープンスペースで、各種ドリンク、パン等の軽食をご用意。和やかな語らいの場所としてご利用ください。



編集後記

新涼から秋涼へと、涼しさを肌に感じる季節となりました。実りの秋を充実した時にしたいものです。今号も、世界を舞台に活躍されているか方々のインタビュー記事等、盛りだくさんの内容でお届けすることができたと思っています。ご一読ください。大阪国

際会議場にもこの秋、内外から多く人々が訪れます。なにわ子のサービス精神でお迎えしてまいります。
大阪国際会議場のHP (<http://www.gco.co.jp>)、公式ブログ〈キューブくん通信〉も御覧ください。



（電車）

- 京阪電車中之島線「中之島(大阪国際会議場)駅」(2番出口)すぐ
- JR大阪環状線「福島駅」から徒歩約10分
- JR東西線「新福島駅」(3番出口)から徒歩約10分
- 阪神本線「福島駅」(3番出口)から徒歩約10分
- 大阪市営地下鉄「阿波座駅」(中央線1号出口・千日前線9号出口)から徒歩約10分

（バス）

- JR「大阪駅」駅前バスターミナルから、大阪市営バス(53系統 船津橋行)
または(55系統 鶴町四行)で約15分、「堂島大橋」バス停下車すぐ
- シャトルバスが、「リーガロイヤルホテル」とJR「大阪駅」桜橋口の間で運行しており、ご利用いただけます(定員28名)
- 中之島ループバス「ふらら」で地下鉄・京阪「淀屋橋駅」(4番出口・住友ビル前)から約15分

大阪国際会議場（グランキューブ大阪）

Osaka International Convention Center

〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3-51 TEL.06-4803-5555 (代)

●編集・発行/株式会社大阪国際会議場 ●発行日/2012年9月25日 ●<http://www.gco.co.jp>

大阪国際会議場公式ブログ〈キューブくん通信〉を始めました。
国際会議場だけでなく中之島界隈の情報もお届けします。

